



★平和について考えよう★

広島県加計高校との合同授業

5月14日(金)・18日(火)

広島県安芸郡の広島県立加計高校の3年生とオンラインでつなぎ、「平和学習」を行いました。この授業は5月の下旬に開催予定だった広島への修学旅行の事前学習のために企画したものです。当事者意識を深めるために、広島で生活している高校生と先生から、原爆のことだけでなく“今を生きる”ことについて対話をしました。



加計高校は、30%の生徒が広島県以外から入学しており、非常に多様な背景を持った生徒が通学しています。自分の意見をはっきりと伝える高校生の姿に刺激を受けて、自分の進路を意識した生徒も多かったようです。

1回目 広島の高校の先生と生徒からのプレゼンテーション

広島加計高校の片岡巧先生(日本史)から、広島の特徴・歴史と戦争について学びました。また、加計高校の生徒から中学生のために制作してもらったユニークなプレゼンがありました。内容は①戦後の食糧難とお好み焼き ② 戦争と歌 ③ アメリカオバマ大統領、広島訪問後の意識の変化。でした。



【生徒の感想】「オバマ大統領の広島への訪問後、アメリカ人の原爆に対する考えが変わった話に感動をした。人の考え・感情は実際に相手に関わることによって変わる。本当の平和は今の自分が、目の前の人と関わることから始まると思った。」

2回目 平和は自分のことを考えることから

「平和な世界を創ることは難しいことではなく、目の前の平和が、世界平和へつながっている。」という考えのもと、次のテーマで5~6人の高校生と1クラスを1組にし、オンラインを通して交流をしました。メインのファシリテーターは昨年キャリア教育学習でも参加いただいた井上創太さん(株BYD)。教室では進学先の選び方や高校生活または個人の考えなど、最初から意見が飛び交い、活発な交流が行われていました。



井上さんから「オンラインだけど、中学生高校生がざっくばらんに交流する中で、お互いがリアリティーある存在になり、新たな世界との出会いがある。平和とはこうやって自由に表現して、自由に自分の将来のことを考えるこの状態のこと。平和のことを深刻に考えないときが平和。」という言葉で締めくくりました。

【人権学習の授業を始めます。】

生徒のみなさんがこれから自分の進路選択をしてくために、中学校終了までにつけてほしい「生きる力」は、予測できない変化の激しい社会で、人と協調しながら、自律的に社会生活を送っていくために必要な実践的な力です。そのために、「人権教育の授業」を通じて育まれる共感やコミュニケーションにかかわる力、具体的な「人権問題」に直面したとき、それを解決しようとする行動力を育む取り組みをする必要があると考えています。

「人を大切にすること。」「自分を大切にすること」をこの学習をきっかけにして一緒に深く考えていきましょう。

“ひとごと”にいませんか。

